

ピーターとおおかみ



小学校体育館・中小ホール向け作品

「わにがまちにやってきた」「ピーターとおおかみ」

- 上演時間 1時間15分(休憩15分含む)
- 編成 キャスト5名 スタッフ1名/計6名
- 運搬 2tトラック1台/2名 公共交通機関利用 4名
- 諸経費 (上演料+交通費+車輜経費+宿泊費)+宣伝材料費



わにがまちにやってきた





ゆにがまちにやってきた

原作/K・チュコフスキー(岩波書店刊) 訳/内田莉沙子 脚色/安尾芳明
演出/栗原弘昌 美術デザイン/宮本忠夫 人形構造・装置/長澤知世 音楽/宮崎尚志
編曲/宮崎 道 照明/阿部千賀子 音響効果/吉川安志

ある日、突然ワニが歌を歌いながら町に現れたから大騒ぎ!そのいでたちは洒落た服装に帽子をかぶり、葉巻をプカプカ。勇ましいワーニャ坊やが立ち向かうと、ワニの言うことには…。



大学教授



太った婦人



ワニ



煙突掃除夫



女の子



警官

「イメージする事」と「直接話す事」

演出 栗原弘昌

今や子どもから大人まで、全ての世代でスマホが定着したように、デジタル社会が加速度を増して普及し、それは世の中をととても便利にしました。わからないことは検索すればある程度は見つかりますし、連絡はメッセージアプリやメールで事足りる日々の中で、「何かについて、イメージすること」や「直接相手と話し、気持ちを伝える事」が少なくなっていないでしょうか。

このお芝居をみる人それぞれが、自由にイメージを膨らませて、「ワニさん」がいるんな人に見え、感じられたらいいなあと思っています。それは異国の国?転校してきた子?引っ越してきた人?新入社員?はたまた普通のおじさん…?

お芝居の中では、誤解やアクシデントもあり町の人たちから一度は嫌われてしまう「ワニさん」ですが、少年ワーニャが勇気をもって直接話しをすることで誤解が解け、町の人たちとの関係も変わっていきます。

私たちの街ではどうでしょうか?知らず知らずのうちに先入観、固定観念にとらわれていることがあると思います。ですから、はじめての人に出会ったら勇気を出して、思い切って心を開いて話してみてください。そこでは何か生まれ、何かが変わるはず。まっさらな心で人と出会い、広がる世界を楽しんでください。



アヒルの親子

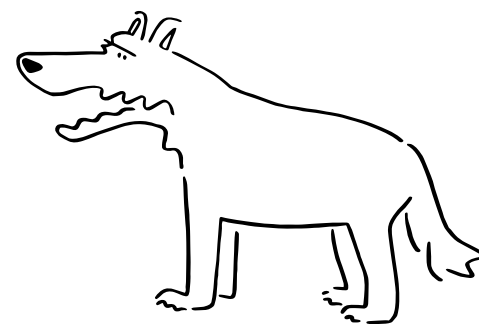
ピーターとおおかみ

作・原曲/セルゲイ・プロコフィエフ 構成・演出/西本勝毅 美術デザイン/長場 雄 美術製作/佐久間弥生
音楽/松本雅隆・上野哲生 演奏/ロバの音楽座 照明/阿部千賀子 音響効果/吉川安志

新作!

シンプルな世界が想像力をかきたてます!

おじさんと深い森の中で暮らすピーターのまえに一匹の大きな灰色おおかみがあらわれ、ともだちのアヒルをペロリ。ピーターはおおかみをつかまえようと網を手にして…



シンプルを目指して 演出 西本勝毅

『ピーターとおおかみ』は、1936年セルゲイ・プロコフィエフが子どものための交響的物語として作曲した作品です。当時クラシック音楽になじみのない子どもたちが気軽に体験して楽しめるように構成され、時代を越えて世界中で愛されてきました。登場人物たちに楽器の音色で個性を与え、ナレーションと演奏で場面を模写していく手法は、子どもも大人も魅了してピーターとおおかみの世界へと導いてゆきます。

今回は、ロバの音楽座による古楽器のやさしい音色の演奏とともに、ピーターを口笛で表現することで、楽器にとらわれず自由にのびのびとピーターの心情が表現されます。そして、長場雄氏のシンプルをつきつめた人形デザインから誕生した、個性溢れる人形たちが織りなすシンプルな世界で、新しいピーターとおおかみの物語が始まります。

世界は今、破壊する音に溢れ、子どもたちはのんびりすることもできません。こんな現代社会だからこそ、素朴に口笛や鼻歌で自由に奏でられる旋律が、子どもたちの想像力をかきたててやさしい世界を感じてもらえるでしょう。なにものにも束縛されずに、自由に動く人形たちが織りなす素朴でシンプルな世界をお楽しみ下さい。

